

特集 山仕事にはまって

● 最初の森林ボランティア

私が森林ボランティアを始めたのは1993年で、それはまだ世間に認知されておらず、教える側も素人で、なかには「素人が山仕事なんか」という声もある状況でした。最初に入った会は、「東京の山が台風被害で荒れているので何とかしよう」というのが活動の始まりでした。活動場所は桧原村や奥多摩のあちこちで、スギ・ヒノキの人工林の中は放置されて薄暗く、木が混んで蔓だらけ、地表に日が差さないので下草も生えず、砂利で滑りやすい場所が多く、作業が終わると体はクモの巣と泥まみれでした。それでも林内が整備されて明るくなるのは気持ちがよいものでした。この会では、おもに一連の昔の山仕事の再現でした。また初心者を集めて林業体験としての間伐を指導するイベントを開催したこともありました。

年間のスケジュールは、

◆ **地ごしらえ**…植林の下準備で、枯れ枝・枯れ草を棒切れて谷側へ丸めながら下ろす作業。おもに冬場に行います。

◆ **植林**…かごやリュックに苗木と水を入れて運び上げ、斜面に植える春先の作業でした。尾根には広葉樹を植えて落葉の養分を山に与え、その下(谷側)には根が深く張るスギ、その下にヒノキを植える、といった方法もあるそうです。

◆ **下草刈り**…背の低い苗木が雑草や蔓に負けないよう手助けする夏場6月～9月の作業です。

◆ **枝打ち**…無節の材を作るための作業で、幹の太さがビール瓶くらいになったら枝を払う。その傷口は4～5年で巻き込まれて痕が見えなくなります。12月に霜が降り始め、木が水を上げなくなってから翌年の3～4月頃まで行います。

◆ **間伐**…通常1.8m間隔で植林されますが、ある程度育つとよい木を選木し、曲がり木・劣勢木を伐採する作業。伐倒時に他の木に傷をつけるとシミができ、傷からバイ菌が入らないよう基本的に木が水を上げていない冬場に行います。夏場に1区画全部を伐採する皆伐(かいばつ)という作業もあり、昔は剥いだ杉皮は杉皮葺きの屋根材料、材は木ぞり(丸太を数本載せて運ぶソリ)やシュロ(木組みの滑り台のようなもの)で麓へ運んだそうです。実際再現して、昔の人の知恵に感心しました。

1995年の阪神・淡路大震災の時、桧原村で切った木を神戸へ送るイベントにNHKの取材が入って、日曜日7時のニュースで放映された時には、森林ボランティアが少しメジャーになった気がしました。

須田 協

● 生活の一部と化した山仕事

最初に入会した森林ボランティアは手ノコ・腰ナタが基本で、次の会ではチェーンソーが基本でした。共用道具の手入れの悪さに辟易して自分のチェーンソーを買い、山仕事を教えてくれる本職の人を探していたところ、2000年の9月頃に山の仲間がチェーンソーの上手な木こり(樵人・そまうど)を知っているとので、恐る恐る会いに行きました。すると、台風の被害木を伐ろう、と親切かつ丁寧に教えて下さったのが今の師匠です。現場には、林業家である師匠の元で働いて60年になる枝打ち・下刈りの師匠が枝打ちをしていました。以来師匠の行く現場へ付いて行き、休みの日はほとんど山作業で過ごすようになりました。教わる代わりに仕事を手伝う、つまり“体で返す”(最初は邪魔してばかり)という状況でした。私は自分の活動を森林ボランティアから、生活の一部という意味を込めた、“山仕事”と言うようになりました。



● 印象に残る山仕事

山仕事での印象に残っている作業をいくつか紹介します。

◆ 民家での伐採

個人宅のヒノキの伐採でした。胸高直径は約70cm、家屋を避けて倒す先には、深さ10m程落ち込んで川が流れていました。追い口を入れて木が倒れた次の瞬間、ヒノキの頭が川へ落ちると根元が跳ね上がり(シーソーと同じ原理)、加えて強靱なヒノキの枝は川底に押し付けられた反動で、木の根元をこちらへ押し戻しました。とっさに避けて難を逃れましたが、伐り終わったらぼんやりと見ていては危険です。また伐倒直後のヒノキの枝払いでは、力が加わって弓なりの枝に切り込みを入れたので、枝がまっすぐに伸びて顔を叩かれ、歯が折れました。

◆ 林業試験場での草刈り

なだらかな斜面に樹高2～3mのさまざまな種類のスギ・ヒノキが数ヘクタールの広さに植えられていて、6～9月に下草を大鎌で刈ります。下草は柔いので鎌は包丁くらいの切れ味にします。荒砥石と仕上砥石と飲み水を腰袋に入れ、研ぎながら刈り進みます。2人で、さく(畑の“うね”、等高線に並ぶ1列の木)の両端からさくの中央に向かって刈り、ひとさく終わったら上のさくへ上がり、斜面の上まで



刈り上げます。鎌
が切れなくな
ると、飲
み水を口
に含んで
全部飲まずに

砥石にかけて鎌を研ぎます。真夏なので飲み過ぎればバテ、飲まなければ熱中症、蚊やハチに刺され、慣れないうちは体重が1日で3kg減りました。

下草刈りに使う大鎌の刃は市販品で、枝打ち用のナタと同様にうぶ毛が剃れるくらいに研ぎました。切れ味が悪いと、もう一度鎌を振って刈り残した草を刈る手間が増えます。チェーンソーも切れないと作業にならず、やはり目立てが大事だと思います。

市販されている大鎌の柄はカシでできているため重いので、スギの枝で作りました。枝打ちの時に使いよさそうな枝を数本確保しておきます。ヒノキは丈夫ですが滑るので毛羽立ったスギを使いますが、乱暴に扱おうと折れるので注意が必要でした。

◆ 急斜面の人工林での枝打ち

最初師匠に枝打ちを申し出た時は切れ味が全くだめで、師匠は自分の枝打ち用のナタで手の甲のうぶ毛を剃って見せ、「これくらいでなきゃやって貰いたくない」と一言。結局市場に出さない木の枝打ちをさせて貰い、刃物研ぎと枝打ちの修行をしていました。刃物の合格には、相当の日数がかかりました。

梯子は1本梯子とかムカデ梯子といって、6mほどのヒノキの1本棒にカシの横棒を打ち込んで現場で作りました。枝打ちは梯子の上まで登って、降りながら作業をします。慣れた人で1日30～40本、見習いの私はせいぜい20本で、日当7000円くらいでした。請負いで1本300円くらいだったと思います。

枝打ちのナタも市販品ですが、刃が厚くクサビ状なので全体的に削って薄くします。薄いと刃こぼれしやすいので、知らない現場や枯れた枝を払う時は身の厚い方を使いました。なぜ切れ味が必要かというと、枝を払うと木に傷口ができ、汚い傷口は巻き込みが遅くバイ菌が入り木が病気になるからで、実際カミソリのように研いだナタで切ると、切り口は滑らかで人間の傷口と同じで直りが早いのだと思います。

◆ 皮むきと製材

製材の前に皮むきをします。生木(なまき)だと皮がむきやすいことと、木材の中に虫が入らないようにする目的です。皮むき鎌は、普通の手刈り鎌の刃と反対側の背にも刃があるもので、往復で切れて便利ですが、木の身に傷がつくので場合によっては水圧で皮を剥ぎます。外側のガサついた外皮をむき、ピンク色の薄い形成層(栄養分の通る部分)の膜を取れば皮むき丸太になります。床柱に使う絞り丸太はそもそも木の育て方が違い、薬品と漂白剤で仕上げていくそうです。製材機械は、原木を載せた台車がレールの上を動いてそれを鋸刃で切るというものですが、やはり製材にも職人技が必要なようです。

雨で山に入れない時は、製材の切れっ端を30cmの長さに切って針金で束ねます。それを1束200円でコンビニに卸すと、バーベキュー用の薪として売られていました。製材して板状に加工したら、材を水平にして紫外線と雨風のかからない場所で自然乾燥させます。木は加工しても生きてるので、時間をかけて水分を抜いてやることで曲がりや反りのない材になります。

◎

なな山は里山で、当初それまでの商業的な施業地と全く違う感じがしましたが、どういう山にしたいのかという点では変わりません。同じ場所で作業後の変化を落ち着いて見られるのも楽しみです。修行を続けつつ、なな山で末永く楽しみたいと思う今日この頃です。

なな山の植物

ヒガンバナ 《彼岸花》 ヒガンバナ科

秋の彼岸の頃になると、間違いなく咲くのがヒガンバナ。土手やあぜ道などに見られ、山の中にはありません。それは中国からもたらされ、人によって植えられてきたからと考えられています。「曼珠沙華」のほか、いろいろな名前をもっていますが、「葉見ず花見ず」という名前は、花期には葉を着けず、晩秋になると葉を出して冬越しをするからです。またヒガンバナは種子ができない不生女(うまずめ)植物(柳宗民氏はこのように記しています)

のため球根で増えます。この球根はむくみ取りなど薬用として用いられたこともありますが、澱粉を多量に含んでいるので、飢饉の多かった昔は食料として利用したといわれています。球根は有毒ですが、水で晒すため澱粉には毒性が残らないようです。昔の人の知恵ですね。(中原)



ゆたかな くらし

相田 幸一



私はこのごろこれまでになかったことだが、あるときはすぐ、あるときはささやかに心豊かな気分になっている。稼ぎもない、蓄えもない、地位も名誉もないのである。9月の初めの金曜から日曜は「森林・林業視察研修の旅」で琵琶湖東・南地域を回った。湖東の国宝級の観音像を巡り、伊吹山の花々に魅了され、国有林のカワウ被害地を視察、田上山の古代からの森林復活の経過を観察し、信楽焼きの感触に心動かされた。

次の土日は静岡県の川根本町周辺の自伐林家（自分の保有する森林で、自家労働を中心に、主として小型機械を用いる林業者）2カ所を訪ね、見学・意見交換と公開シンポジウムに参加。手入れの行き届いたスギ・ヒノキ林に感激し、意義深い交流に至福の時を過ごしてきた。

第三の土日は長野県富士見町で、多摩市民の森のカラマツの間伐作業に汗を流した。

その間、市内の多摩川では近くの三つの小学校の自然体験学習でガサガサ（タモ網で魚を捕る）、植物・昆虫観察の指導で子どもたちの目の輝きに付き合った。

そして、私の背中を「なな山緑地」と、そこで活動する仲間たちが強く後押ししてくれて、私の活動の支えとなっている。そんな日々が続いている。

自然環境の中に身を置いて、水や緑、生き物とかかわる喜び・楽しさ、また仲間たちとの交流が、私にとってもなく大きな豊かさを感じさせてくれる。そして、それが僅かではあっても何か社会に、地域に役立つものであれば、願ってもないやり甲斐をもたらしてくれる。自然と向き合い、自分の存在が他とともに認められるとき、人は「ゆたかなくらし」を実感できるのではないだろうか。



静岡県川根本町周辺のスギ林

今、私はそんな気分になっている。

写真上：長野県富士見町、多摩市民の森のカラマツの間伐作業



「カワウとの共生の森」にて説明を聞く

深めよう会員の絆

リレー随筆

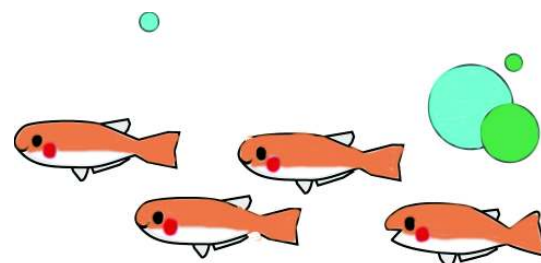
山の風にいろいろな香り

正岡 洋子

初めまして正岡洋子と申します。

私の生まれは熊本県の片田舎、川の水が綺麗な所です。小さい頃は川で泳いだりメダカをすくったりして遊んでいました。セキレイも沢山いました。その頃は農薬も使わなかったのでしょうか、小川にはフナ、たんぼにはドジョウその他沢山の生き物がいました。現在は川でも農薬の影響で泳げないようです。

この百草地区に住むようになってから1年3カ月になります。毎朝、小鳥の声で目覚める嬉しさ有難さ。散策しながら多摩川まで足をのばすこともあります。なな山の傍を通る時、いつもこの樹木の緑の深さに惹かれていました。土の色も匂いも違うように感じました。興味を引かれていた折り、昨年秋、多摩市民環境会議の講座「なな山でのフィールドワーク」に参加しました。そこでこの山の素晴らしい環境を知りました。土壌生物の先生が腐りかけた切り株を動かして虫たちを見せて下さいました。また、土を篩って虫たちを取り出し手に乗せて見せて下さいました。虫に触れるその愛おしそうなお手つきを見ていると虫に対する嫌悪感が不思議に薄らいできました。虫や沢山の生物が気の遠くなるような年月をかけて朽ち木や葉っぱを分解してくれるお蔭で土地が豊かに作られていくことを知りました。樹木が空気を浄化する大切さを感じました。考えますと人間は地球を汚すだけ？自然に対して何が出来るかしらと考えた時、草木や虫や鳥たちが住みやすい環境を整えてあげられたらいいのではと思いました。何の経験もない素人が里山保存のお手伝いが出来るだろうか躊躇しましたが、「関心を持って貰えれば、花の名前を覚えるだけでもいい」とおっしゃって下さいましたので、今年4月から参加させて頂きました。何も出来ませんが、今はお手伝いしながら山の風に含まれるいろいろな香りを楽しませて頂いて居ります。これから勉強して参りますので、よろしくご指導下さいますようお願い申し上げます。



なな山日記 (活動・観察記録)

高澤 愛

<p>No.240 2014年4月13日(日) 晴れ 19℃ 19人 平成26年初初めての作業。山全体が春の芽吹き。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●作業/倒木処理。スギ、ヒノキの皮むき。倉庫整理。畑に耕耘機をかける。ニラの移植。 ●観察/タチツボスミレ、ニオイタチツボスミレ、ヒゴスミレ、マルバースミレが咲いた。 	<p>No.241 2014年4月26日(土) 晴れ 22℃ 6人</p> <ul style="list-style-type: none"> ■多摩市グリーンボランティア講座(初級)なな山で開催。阿部多摩市長、高木会長の挨拶。住崎さんからなな山を寄付した経緯について。川添会長から雑木林の構造とマウント群落の講義。相田さんから活動状況の説明となな山全域の案内。公園緑地課の菊池さんから多摩市の緑地化政策についての説明。笹刈り、刈払機の実習。8:30~14:30 講習生26人。
<p>No.242 2014年4月27日(日) 晴れ 22℃ 18人 キンラン花盛りで新緑の美しい一日。「なな山の植物」新版発行。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●作業/クヌギ、コナラの苗床づくり。倉庫の整理と棚卸し。チェーンソー、刈払機の整備。広場周辺、トイレ清掃。サトイモの植付け。ラッカセイの種まき。 ●観察/全山の観察。今年はキンランの数が多し。 	<p>No.243 2014年5月11日(日) 晴れ 26℃ 19人 爽やかな風がこちよ活動日和。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●作業/ヤマザクラ伐倒。マツ、エゴノキ剪定。スギの皮むき。植物養生。ジャガイモ芽かき。コダマスイカ植付け。 ●観察/西の山で動物が掘った穴を発見、アナグマか。サイハイランの芽が伸び、開花はもうすぐ。ササバギンラン、ハンショウヅル、ヤマツツジ、フタリシズカの花が咲いた。
<p>No.244 2014年5月25日(日) 晴れ/曇り 24℃ 24人 見学と体験希望者4人来山。自然観察と活動を体験。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●作業/広場、西の谷奥の草刈り。道路沿いの草刈りと清掃。スギの皮むき。樹木の苗の保護管理。 ●観察/サイハイラン、ネジキの花が満開。ナツハゼ、ニワゼキショウ、イボタノキの花が咲いた。 	<p>No.245 2014年6月1日(日) 晴れ 29℃ 4人</p> <ul style="list-style-type: none"> ■南鶴牧小学校の観察会が10時から13時まで行われた。参加者/先生5人、保護者1人、子ども35人 <p>スギとヒノキの見分け方の話。サイハイラン、フタリシズカなど、学校では見られない花の観察。ヤマザクラやウグイスカグラの実を試食。ウスイロオナガシジミなど蝶の観察。木工作はくるりんカー、ぶんぶんゴマ、シュロ工作など。</p>
<p>No.246 2014年6月15日(日) 晴れ 32℃ 16人 梅雨入りし、先週の活動が今日に振替えに。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●作業/スギの伐倒。シイタケ、ナメコの本伏せ。畑とその周辺の草取り。スイカに敷き藁。ヤマユリの支柱立て。 ●観察/カブトムシの雌を発見。ムラサキシキブ、オオバジャノヒゲの花が咲いた。ハンショウヅルの咲き殻が風車のような感じ。 	<p>No.247 2014年6月29日(日) 曇り/晴れ 25℃ 10人 雨で中止となった先週の振替え活動。湿度が高く、動くとき汗ビショリ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●作業/畑の草取り、法面の草刈り。道路沿いの木の始末。湧水周囲の杭の取り替え。チェーンソーの整備。一輪車、リヤカーの修理。 
<p>No.248 2014年7月13日(日) 曇り 26℃ 18人 なな山産ジャガイモは美味しい!!</p> <ul style="list-style-type: none"> ●作業/ジャガイモ収穫。広場、西側法面の草刈り。ホオズキ、ヤマユリの養生。チェーンソーの目立て。道具の補修。 ●観察/ヤマユリが見事に咲き始めた。タマゴダケが出ていた。 	<p>No.249 2014年7月27日(日) 晴れ 32℃ 18人 暑い暑い日、カブトムシの談合か。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●作業/畑の草取り。西側法面の刈草集め。シガラの修理。チェーンソーで丸太切り。 ●観察/カブトムシがたくさん集まっていた。黄色いスイカが着々と成長。ホオズキが色づいてきた。
<p>No.250 2014年8月17日(日) 晴れ 24℃ 12人 スイカのゴールデンを収穫!</p> <ul style="list-style-type: none"> ●作業/広場、畑の草取り。西側法面、道路沿いの草刈り。湧水地の杭打ち。西の谷のアカマツの養生。 ●観察/数年間見られなかったツリガネニンジンの花を確認。ワタの花が咲いた。 	<p>なな山だより 第32号 2014年10月12日発行</p> <p>発行 　　なな山緑地の会 発行責任者 高木直樹 住所 　　多摩市和田1394-13 ホームページ http://www.geocities.jp/nanayamaryokuchi/ 編集委員 鎌田文雄 高澤 愛 中原君代</p>